

バックアップ手順（Windows Storage Server 2012）

①「バックアップツール」を用いた定期バックアップ

「バックアップツール」は、Windows Storage Server 2012 標準の「Windows Server バックアップ」の制限事項を解消するためのオリジナルのツールです。「バックアップツール」はバックアップ設定を複数作成出来るものになります。

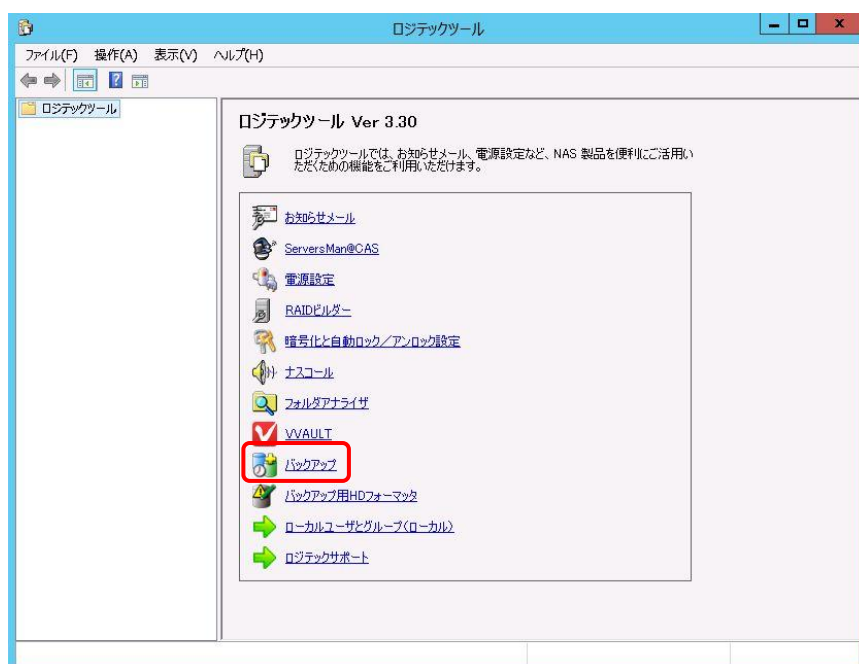
<「バックアップツール」の制限事項>

- ※ バックアップツールは、複数のバックアップ作業を同時に実行することができません。バックアップツールでは複数のバックアップ設定を登録できますが、同時に実行されないよう、スケジュールを調整してください。
- ※ バックアップ元の指定は、ボリュームもしくはフォルダ単位となります。ファイルのみの指定はできません。
- ※ バックアップ先の指定は、論理ドライブ単位となります。ただし指定できるのはハードディスク(内蔵/外付け)のみです。光学ドライブや共有フォルダは指定できません。
- ※ 1つのバックアップ先論理ドライブに対して設定できるバックアップセットは1つのみです。複数のバックアップセットを設定しないでください。設定した場合、バックアップデータが後に実行されたものの上書きされてしまいます。例えば、“DATA-A”フォルダのバックアップ先として論理ドライブ“E:”を指定した場合、“DATA-B”フォルダのバックアップ先として“E:”を指定することはできません。よって、1つのバックアップセットに対して1つのバックアップ先ハードディスクをご用意いただき、複数バックアップセットを登録する場合は交換しながら運用していただくことをお勧めいたします。バックアップ先論理ドライブは、あらかじめNASバックアップ用HDDフォーマットでフォーマットしておいてください。

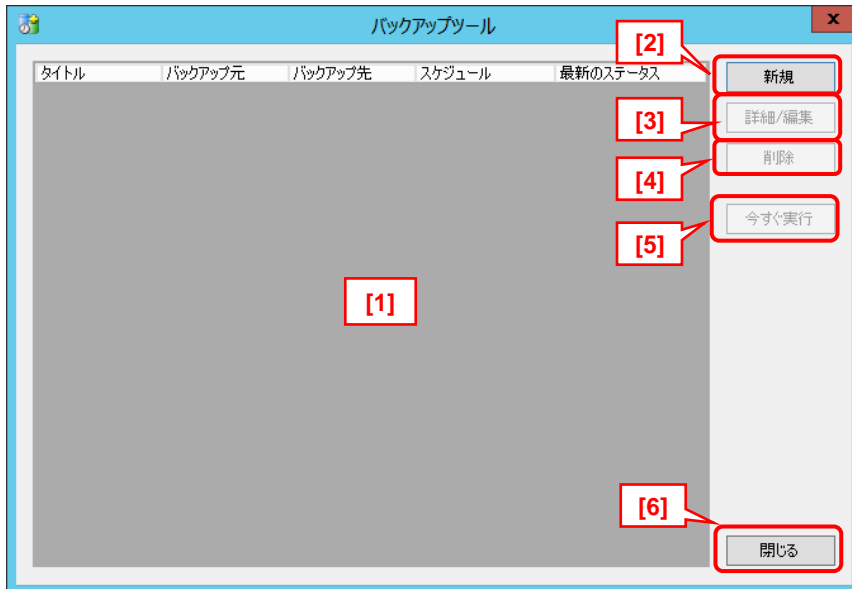
◎バックアップ手順

1. バックアップセットの登録

- (1) ロジテックツールメニューで[バックアップ]をクリックします。



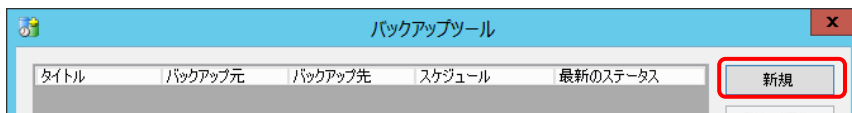
(2) [バックアップツール]が表示されます。



<画面の説明>

- [1] バックアップ項目リスト
登録されているバックアップセットの一覧です。
- [2] 「新規」ボタン
バックアップセットを新規に追加します。
- [3] 「詳細／編集」ボタン
「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を編集できます。
- [4] 「削除」ボタン
「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を削除します。
- [5] 「今すぐ実行」ボタン
「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を開始します。
- [6] 「閉じる」ボタン
「バックアップツール」設定ダイアログを閉じます。

(3) 新しくバックアップセットを作成する場合は[新規]ボタンをクリックします。



(4) 「バックアップ設定」ダイアログボックスが開きます。

[1] タイトル…バックアップセットに、任意のタイトルを設定します。

[2] フォルダパス
「参照」ボタンをクリックして、バックアップ元となるフォルダのパスを指定します。バックアップ対象から除外するものを指定する事も可能です。

[3] バックアップ先
バックアップ先の論理ドライブ番号を指定します。バックアップ先として指定するドライブは、あらかじめバックアップ用 HD フォーマットでフォーマットしておいてください。バックアップが実行されると、自動的にコンピュータ名のフォルダがルートフォルダへ作成され、その中にバックアップデータが保存されます。

[4] スケジュール
バックアップを開始するスケジュールを設定します。
トリガ…下記の選択肢から選択できます。

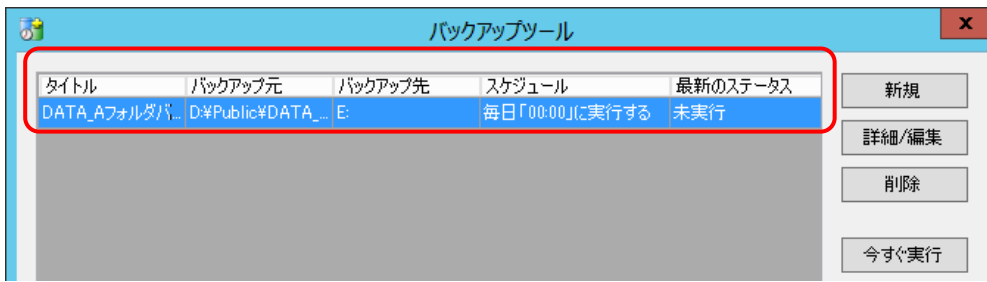
- 1回だけ実行する…日付と時刻を指定します。
- 毎日指定時刻に実行する…時刻を指定します。
- 指定曜日の指定時刻に実行する…実行する曜日と、時刻を指定します。
- 指定月、指定日の指定時刻に実行する…実行する日にち、時刻を指定します。

[5] リトライ
バックアップ作業の開始に失敗した場合に、再試行する間隔と回数を指定します。バックアップ作業は重複して実行することができないため、作業が完了する前に次のバックアップ作業を開始しようとすると失敗してしまいます。このような場合でも、「スケジュール」とこの「リトライ」の設定を適切に行うことにより、回避が可能です。

(5) 各項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

※ バックアップセットが登録されました。

複数のバックアップセットを登録する場合は再度[新規]ボタンをクリックし、バックアップセットを作成してください。
登録したバックアップセットの内容確認や編集をしたい場合は、登録されたバックアップセットをクリックし、[詳細／編集]ボタンをクリックします。



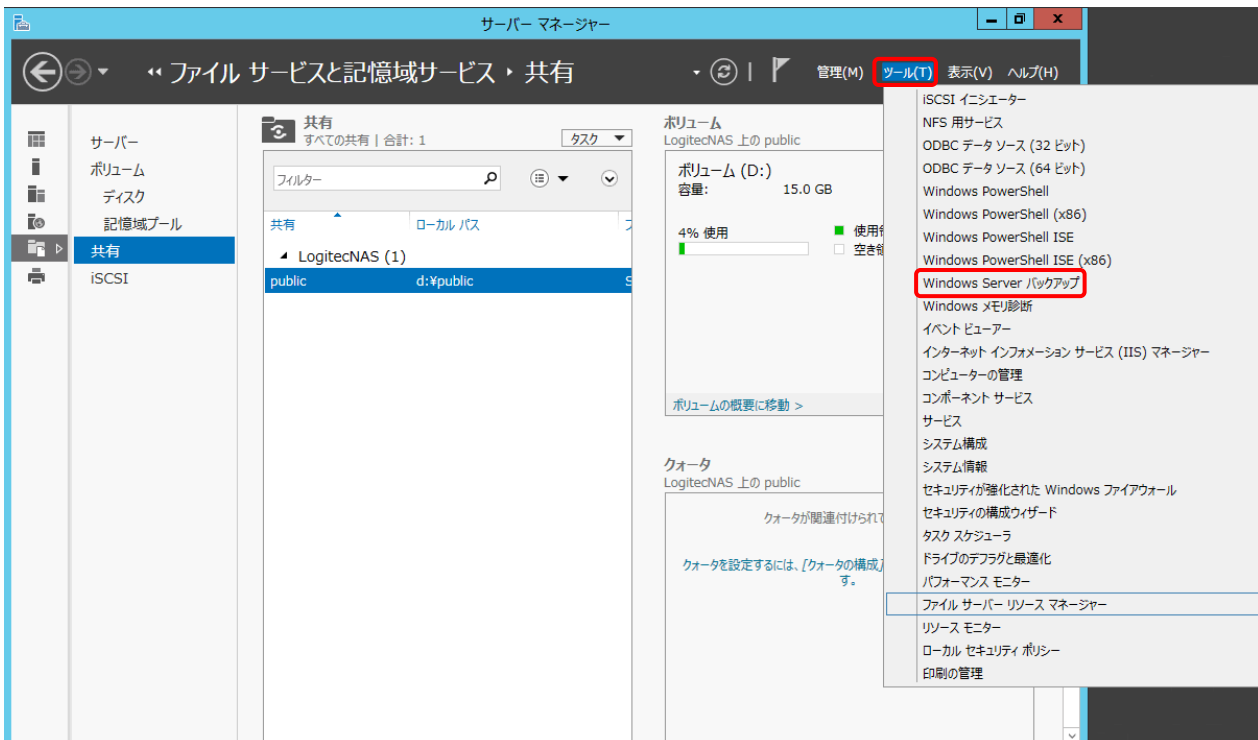
2. バックアップの実行状況確認

「バックアップツール」を用いて実行したバックアップの実行結果は、最新の実行状況については「バックアップツール」上の[最新のステータス]から確認することができます。

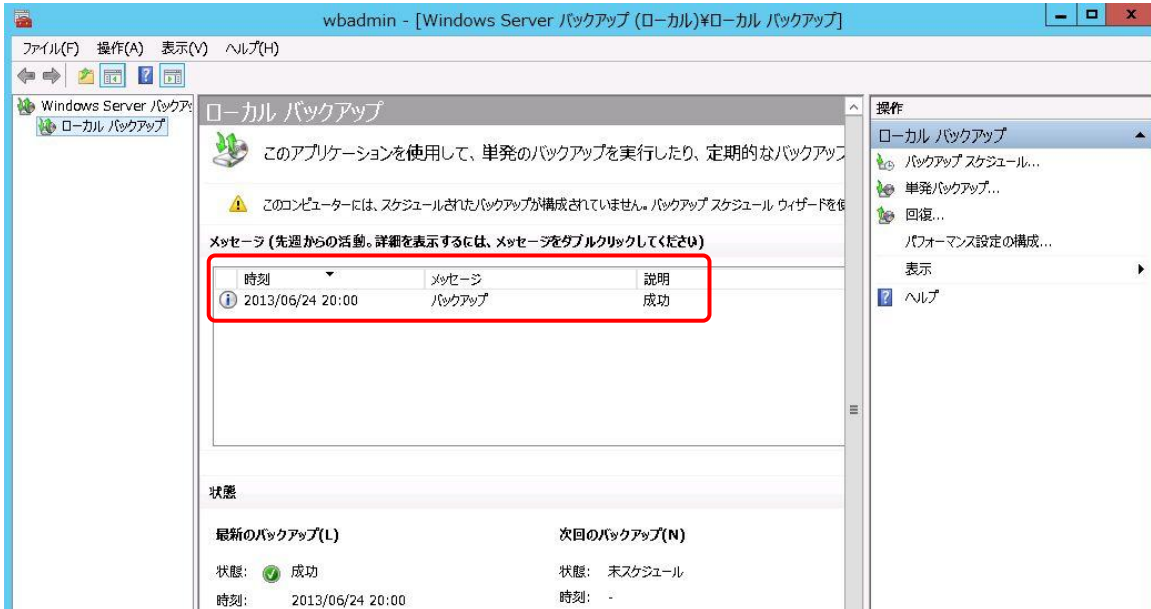


最新のものではない実行状況の確認や、失敗していた場合のエラーログの確認等は、「Windows Server バックアップ」を起動して行います。

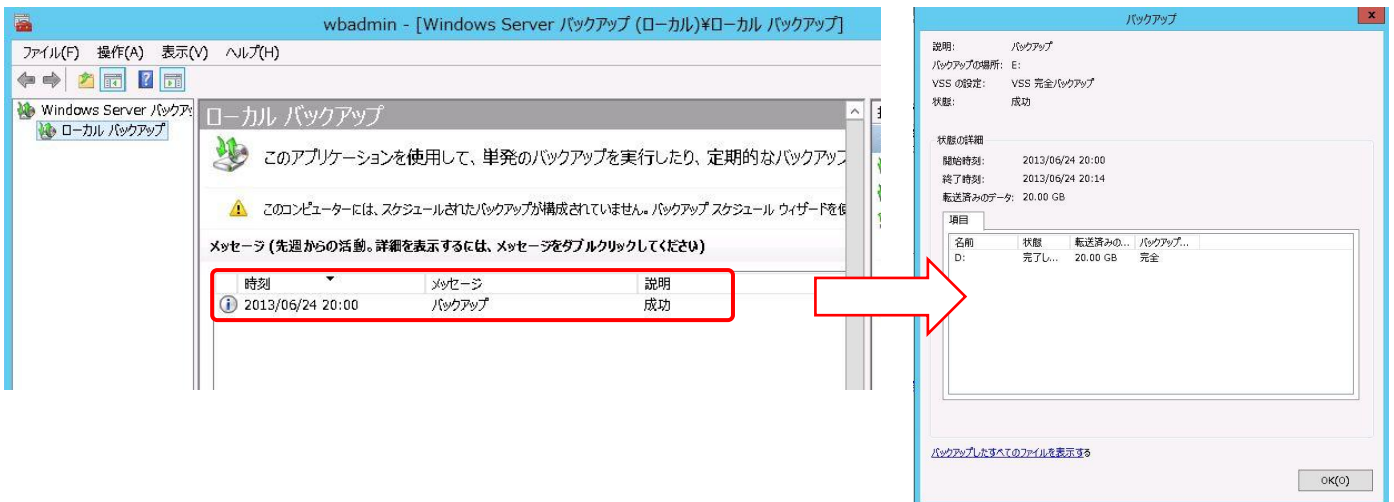
(1) [サーバーマネージャー]より[ツール]をクリックし、プルダウンメニューから[Windows Server バックアップ]を選択します。



(2) 「Windows Server バックアップ」が起動します。中央部の「メッセージ」にバックアップの実行状況が表示されます。



(3) 「メッセージ」内の各行をダブルクリックすることで、個々のバックアップの詳細を確認することができます。



② 「Windows Server バックアップ」を用いたスケジュールバックアップ

本製品には Windows Server 2012 標準の「Windows Server バックアップ」が標準搭載されています。「Windows Server バックアップ」は様々な機能が搭載されていますが、ここではシステム・データの保全のためのスケジュールバックアップの手順を説明します。

<「Windows Server バックアップの制限事項」>

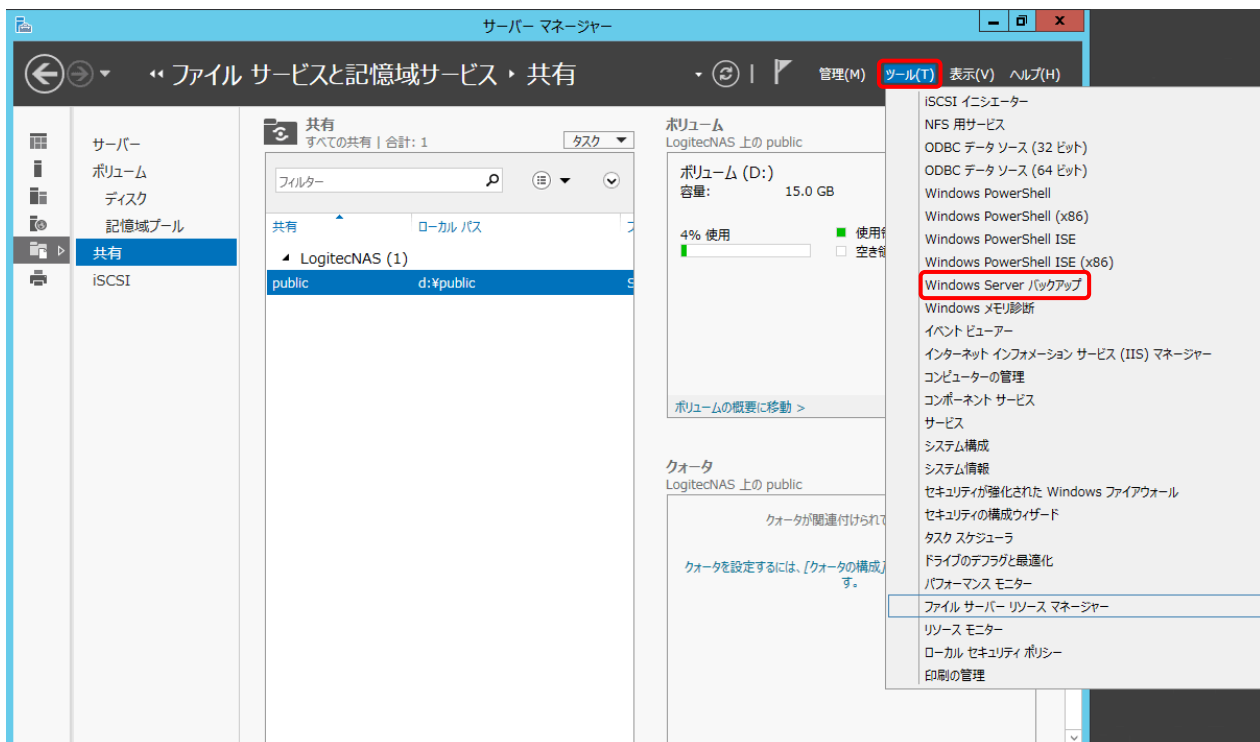
- ※ バックアップ設定は 1 組しか登録できません。
- ※ 実行時刻の設定は 30 分刻みでの指定(毎時 0 分・30 分のみ)しかできません。

これらの制限事項を回避するため、本製品には専用の「バックアップツール」が搭載されていますので、こちらもご活用ください。

◎バックアップ手順

1. バックアップの登録

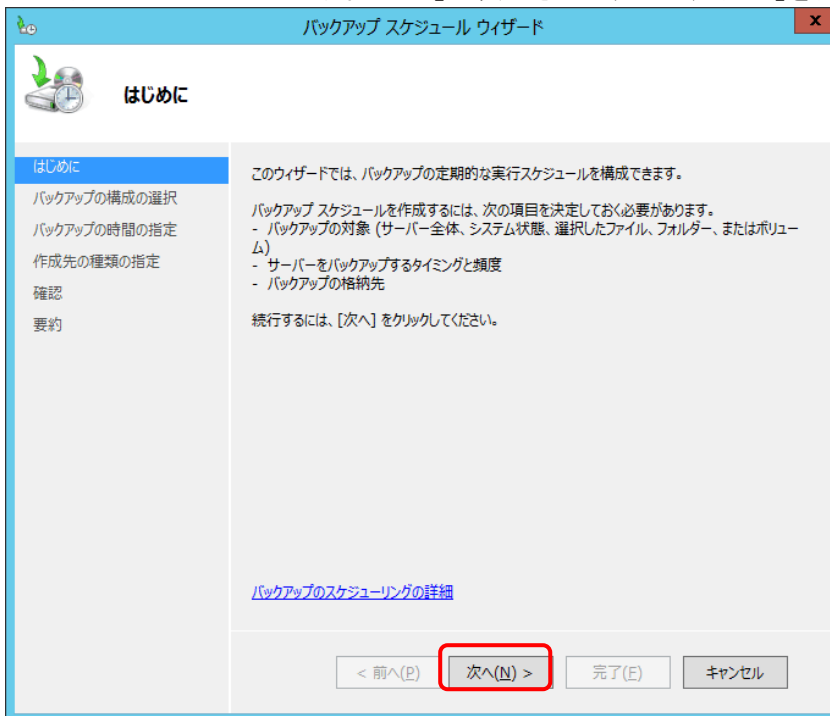
(1) [サーバーマネージャー]より[ツール]をクリックし、プルダウンメニューから[Windows Server バックアップ]を選択します。



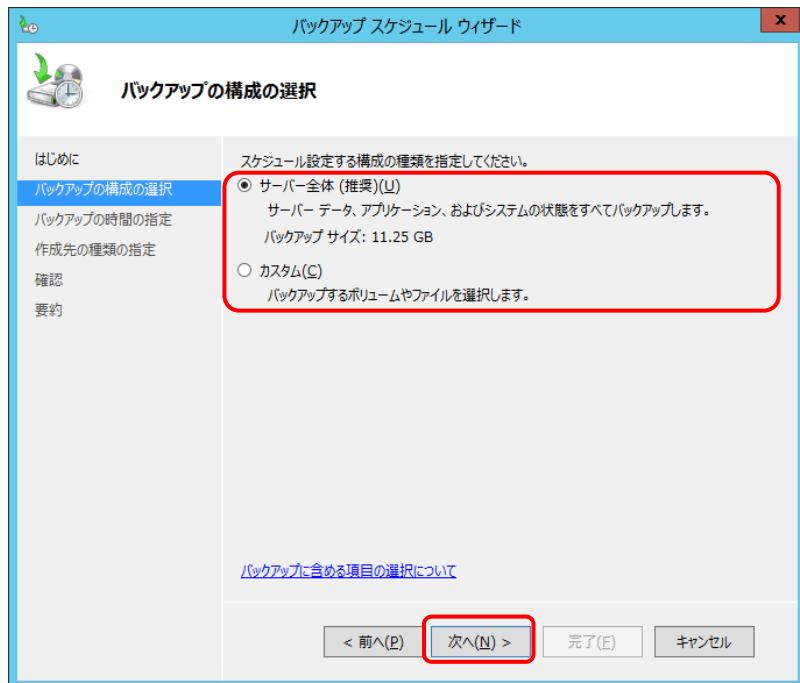
(2) 「Windows Server バックアップ」が起動しますので、[バックアップスケジュール]をクリックします。



(3) 「バックアップスケジュールウィザード」が表示されますので、「次へ」をクリックします。



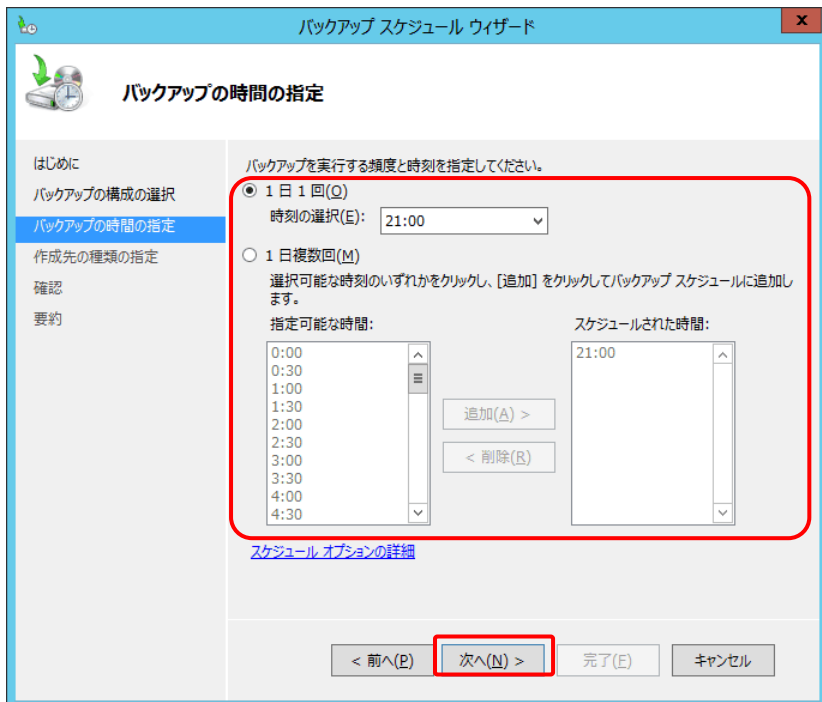
- (4) 「バックアップ構成の選択」が表示されますので、バックアップの構成を選択します。
 データやアプリケーション、システム状態等をすべてバックアップする場合は[サーバー全体]を選択します。
 バックアップしたい項目を選択する場合は、[カスタム]を選択します。
 選択したら[次へ]をクリックします。



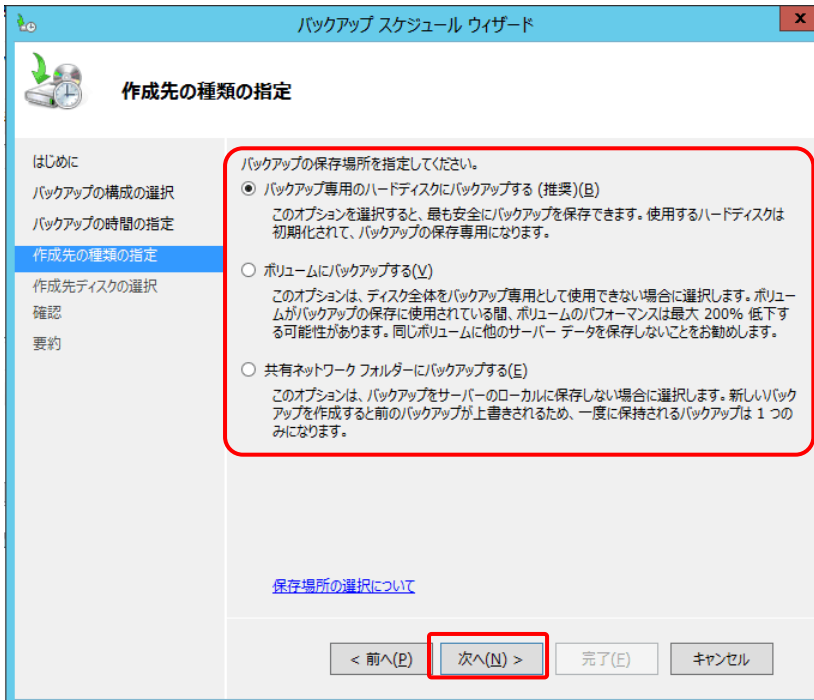
【注意】

[サーバー全体]を指定してバックアップした場合、取得したバックアップから復元できるものは、データ領域のボリューム全体・ファイルやフォルダ・システム状態(アプリケーションは除く)のみになります。
 システム領域(C ドライブ)のボリューム全体や、アプリケーション等を含めたシステム全体の復元(ベアメタル回復)には対応しておりません。ご了承ください。

- (5) 「バックアップの時間の指定」が表示されますので、バックアップを実行する時刻と1日の実行回数を指定します。



(6) 「作成先の種類の指定」が表示されますので、バックアップ先の設定を行います。



<保存場所>

[バックアップ専用のハードディスクにバックアップする]

バックアップ専用のハードディスクを用いてバックアップを行う際に選択します。

このオプションを選択した場合、そのハードディスクはバックアップ専用としてフォーマットされ、論理ドライブ番号が設定されません。エクスプローラー等にドライブが表示されないため、誤ってバックアップデータを消去してしまう等のミスを防ぐことができます。ただし、元々データが保存されているハードディスクを使用する場合、このオプションを選択するとフォーマットされてしまうため、あらかじめデータの退避等の作業が必要となります。

[ボリュームにバックアップする]

ボリュームに専用のフォルダを作成し、そのフォルダにバックアップデータを保存します。

ボリューム内にバックアップデータ以外のファイルを保存することができますが、エクスプローラー等からバックアップデータを操作することが可能なため、注意が必要です。また、バックアップ中はハードディスクへアクセスが集中しますので、既存データへのアクセス速度が著しく低下します。

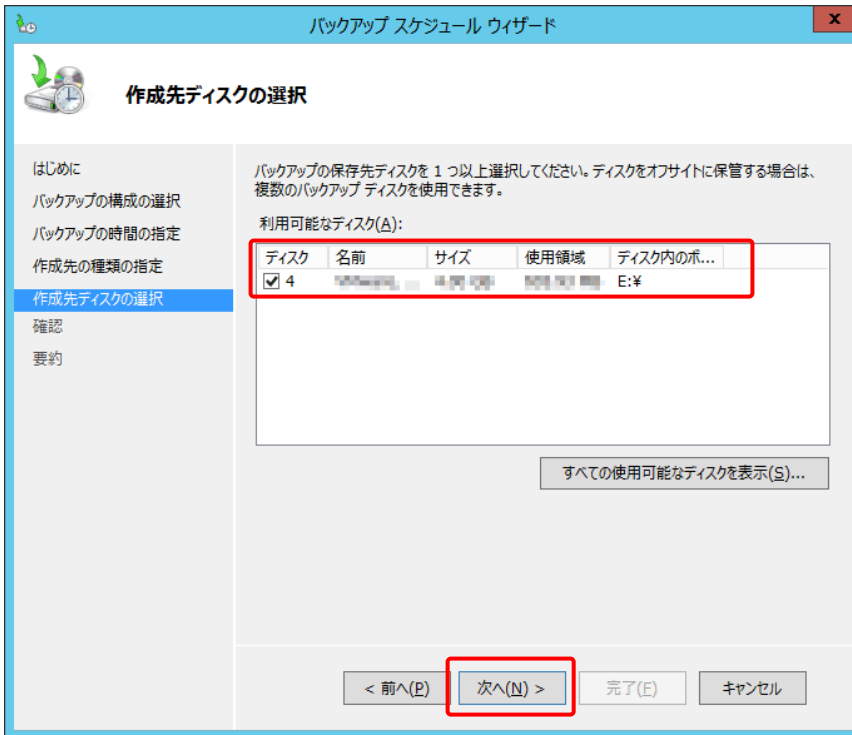
[共有ネットワークフォルダーにバックアップする]

リモート領域にバックアップを行います。このオプションではバックアップは常に上書きされるため、世代管理ができません。

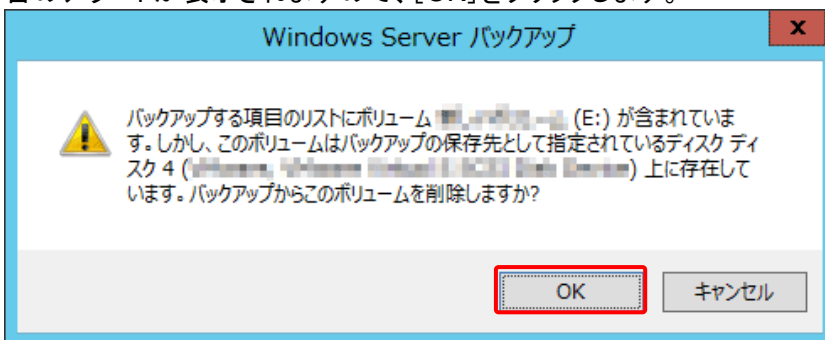
選択は可能ですが、バックアップデータの保全等の観点から、弊社では[バックアップ専用のハードディスクにバックアップする]を選択することを推奨します。弊社製 NAS バックアップユニット利用の際もこのモードを選択してください。

【ここからは、[バックアップ専用のハードディスクにバックアップする]を選択したものと進めていきます。】

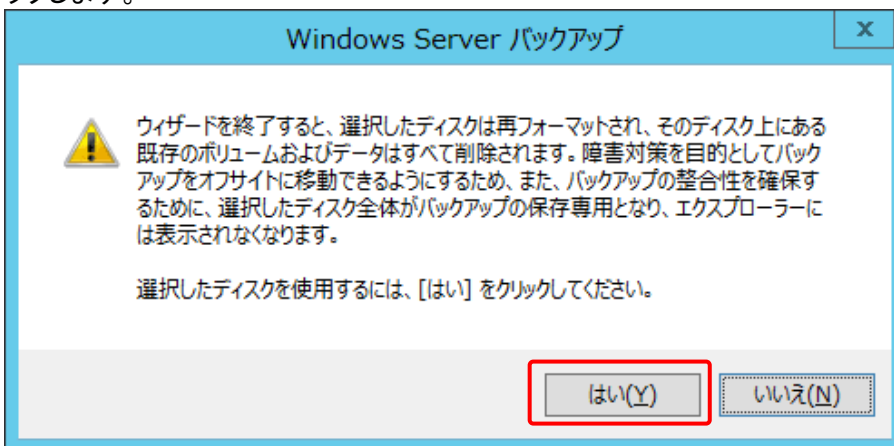
- (7) 「作成先ディスクの選択」が表示されますので、バックアップの保存先ディスクを選択して[次へ]をクリックします。
【注意】バックアップ先のディスクは自動的にフォーマットされ、既存のデータは消去されます。ご注意ください。



- (8) バックアップ先に指定したボリュームがバックアップ元として指定されている場合、バックアップ元のリストから除外する旨のアラートが表示されますので、[OK]をクリックします。



- (9) バックアップ先のハードディスクがフォーマットされる旨のアラートが表示されますので、内容をご確認の上 [[はい] をクリックします。



- (10) バックアップ先のディスクがフォーマットされ、バックアップスケジュールの設定内容が表示されます。設定に問題が無ければ[完了]をクリックします。

The screenshot shows the 'Backup Schedule Wizard' window at the 'Confirmation' step. The left sidebar has '確認' (Confirmation) selected. The main area displays the following information:

- はじめに: 次のバックアップ スケジュールが作成されます。
- バックアップの構成の選択: バックアップの時間: 21:00
- バックアップの時間の指定: 除外ファイル: なし
- 作成先の種類の指定: 詳細オプション: VSS 完全バックアップ
- 作成先ディスクの選択: バックアップ先

名前	ラベル	サイズ	使用領域
Volume 0...	Logical 2002...	4.00 GB	4.00 GB (100%)

Below the table, the 'Backup Items' section lists:

- 名前
- システム状態
- ベア メタル回復
- ボリューム (D:)
- ローカル ディスク (C:)

At the bottom, there are four buttons: '< 前へ(B)', '次へ(N) >', '完了(E)', and 'キャンセル'. The '完了(E)' button is highlighted with a red box.

- (11) 以上でバックアップスケジュールの設定は完了です。「閉じる」をクリックしてウィザードを終了します。

The screenshot shows the 'Backup Schedule Wizard' window at the 'Summary' step. The left sidebar has '要約' (Summary) selected. The main area displays the following information:

- はじめに: 状態: バックアップ スケジュールが作成されました。
- バックアップの構成の選択: 1 回目のスケジュールされたバックアップは 2012/10/25 21:00 に実行されます。
- バックアップの時間の指定: スケジュールされたバックアップの保存に使用するディスクがこのコンピューターに接続され、使用できる状態になっていることを確認してください。
- 作成先の種類の指定:
- 作成先ディスクの選択:
- 確認:
- 要約:

At the bottom, there are four buttons: '< 前へ(B)', '次へ(N) >', '閉じる(C)', and 'キャンセル'. The '閉じる(C)' button is highlighted with a red box.

③ 復元

「バックアップツール」で取得したのも含め、バックアップデータから復元する場合は、「Windows Server バックアップ」から操作を行います。

<復元できる項目>

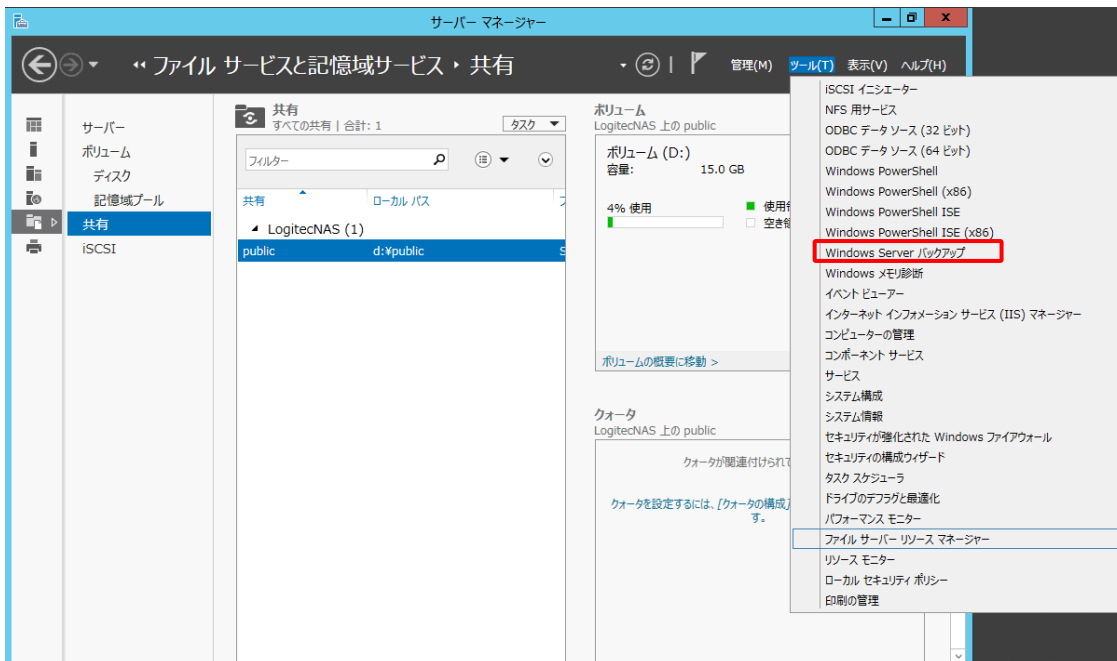
1. ファイル・フォルダ
2. データ領域のボリューム全体…「Windows Server バックアップ」でボリューム全体をバックアップ項目に指定した場合のみ可能
3. システム状態…「Windows Server バックアップ」で「システム状態」をバックアップ項目に指定した場合のみ可能
(バックアップ構成で「サーバー全体」を選択している場合は上記全ての復元が可能です)

【注意】

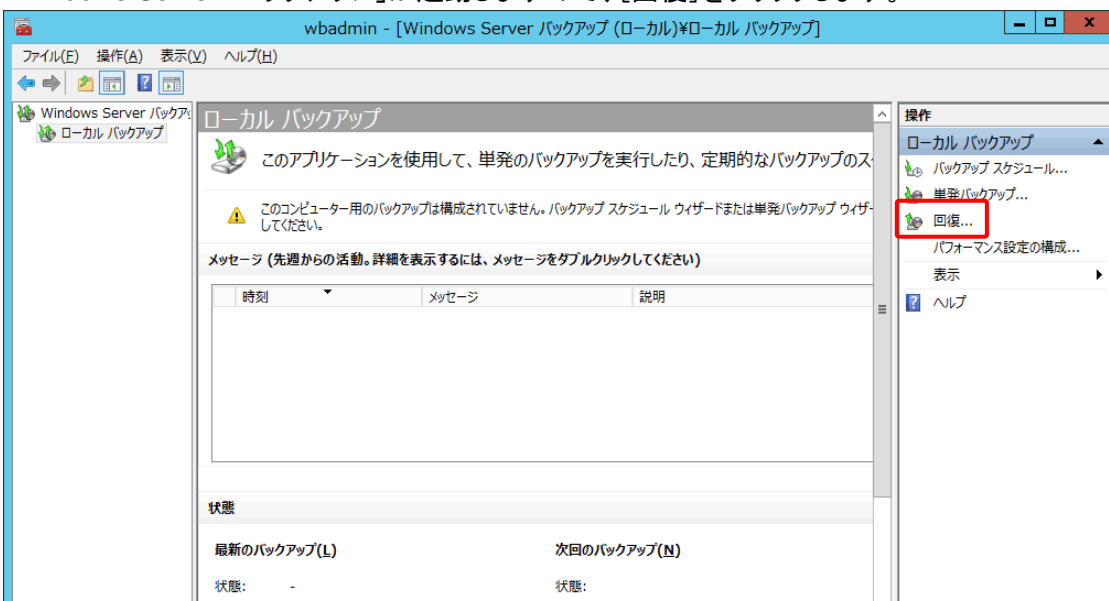
システム領域(C ドライブ)のボリューム全体や、アプリケーション等を含めたシステム全体の復元(ベアメタル回復)には対応していません。ご了承ください。

1. ファイル・フォルダの復元

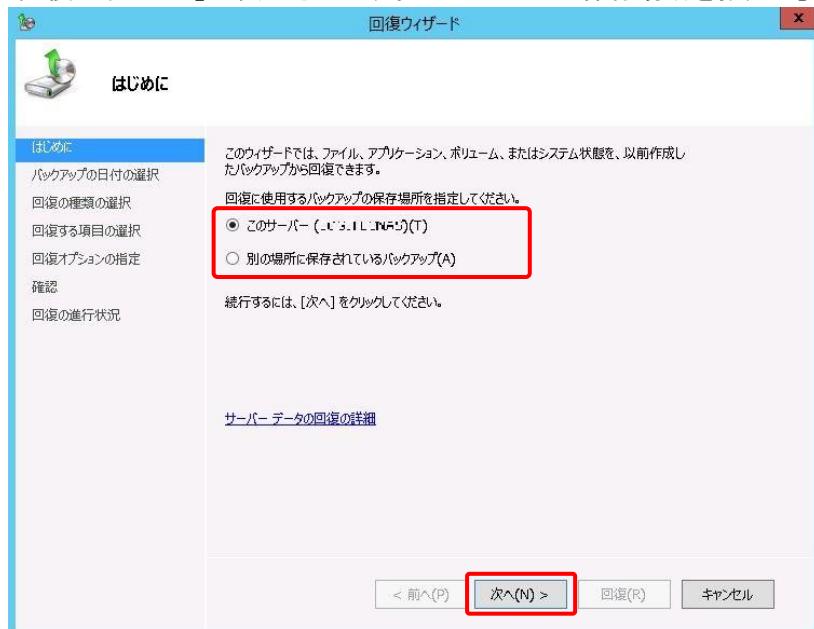
(1) [サーバーマネージャー]より[ツール]をクリックし、プルダウンメニューから[Windows Server バックアップ]を選択します。



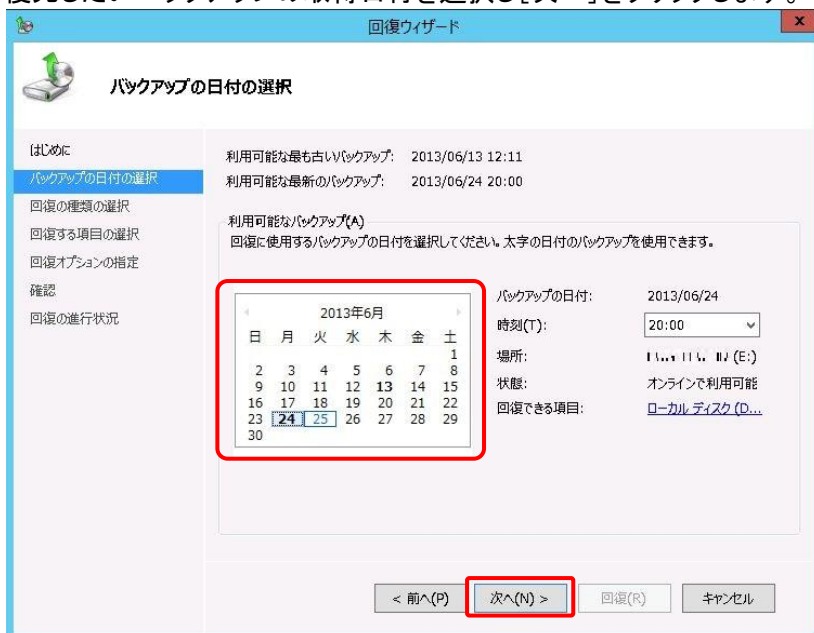
(2) 「Windows Server バックアップ」が起動しますので、[回復]をクリックします。



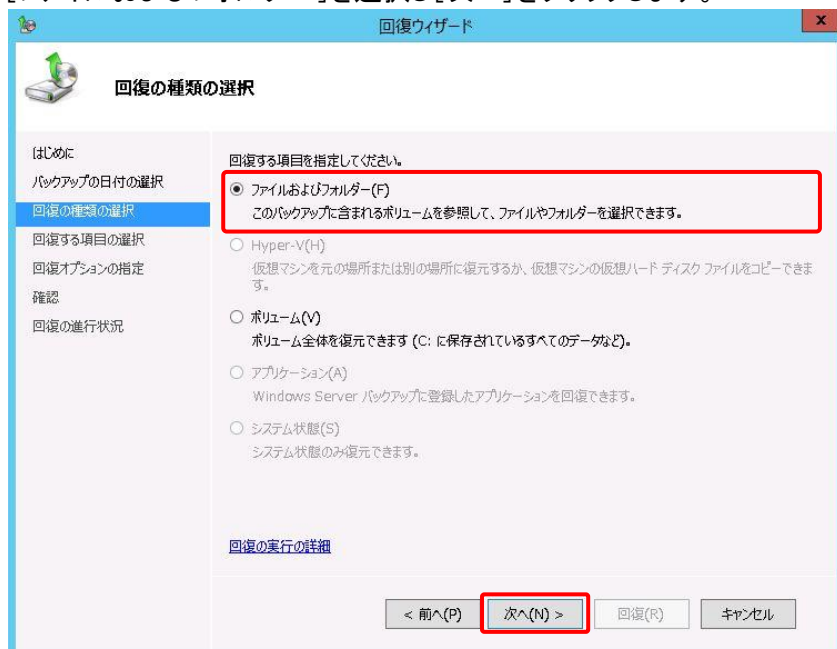
(3)「回復ウィザード」が表示されます。バックアップの保存場所を指定し[次へ]をクリックします。



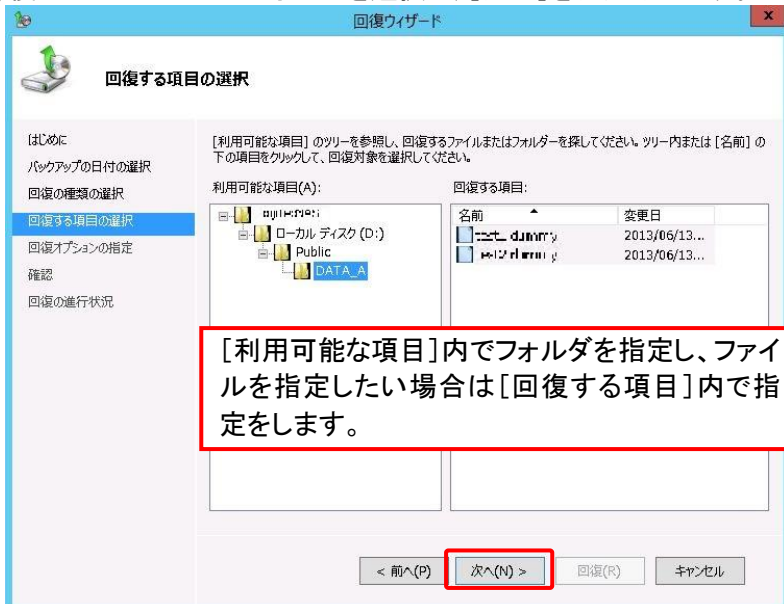
(4) 復元したいバックアップの取得日付を選択し[次へ]をクリックします。



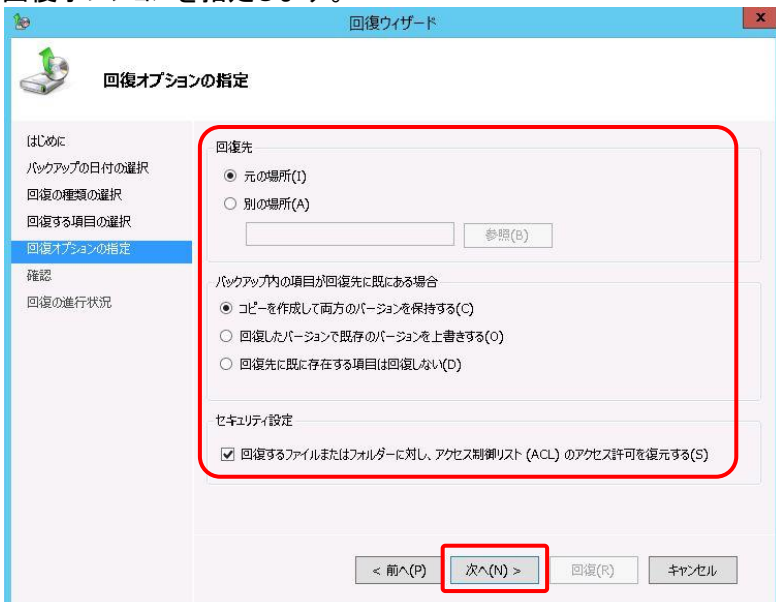
(5) [ファイルおよびフォルダー]を選択し[次へ]をクリックします。



(6) 復元したいファイル・フォルダを選択し、[次へ]をクリックします。



(7) 回復オプションを指定します。



<回復先>

[元の場所]

バックアップ時と同じフォルダへ復元されます。

このオプションを選択した場合、復元先のフォルダ内にある同名ファイルの処理方法を[バックアップ内の項目が回復先に既にある場合]のオプションで選択する必要があります。

[別の場所]

復元先のフォルダを指定します。

<バックアップ内の項目が回復先に既にある場合>

復元先フォルダに同名ファイルが存在した場合の処理方法を選択します。

[コピーを作成して両方のバージョンを保持する]

復元先フォルダに同名ファイルがあった場合、復元したファイルのファイル名を変更し、さらにバックアップを取得した日付がファイル名に付加されます。

[回復したバージョンで既存のバージョンを上書きする]

同名ファイルがバックアップデータで上書きされます。そのため、復元先フォルダ内の既存データが上書きされてもよいかをあらかじめ確認しておく必要があります。

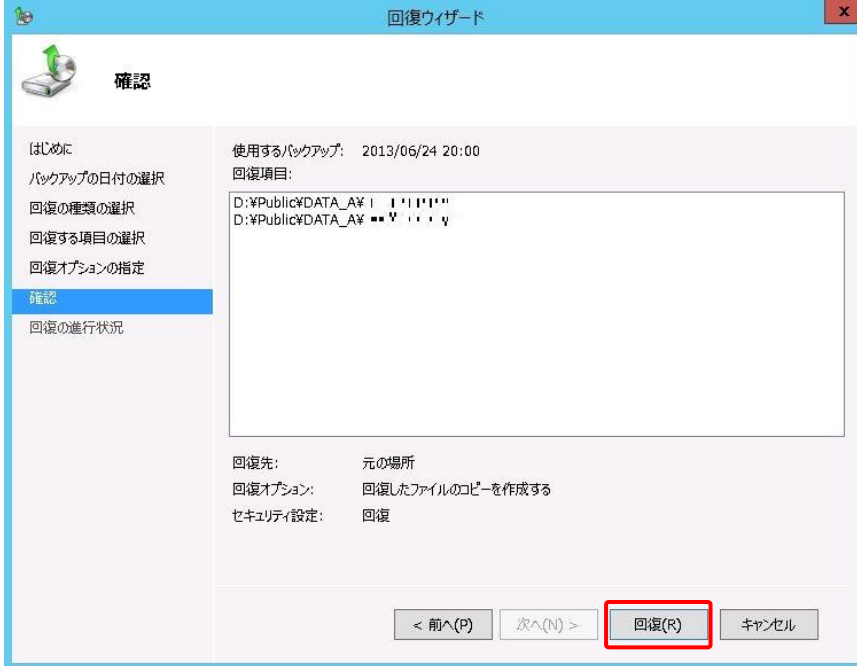
[回復先に既に存在する項目は回復しない]

同名ファイルがある場合はバックアップデータで上書きせずに既存データを保持します。

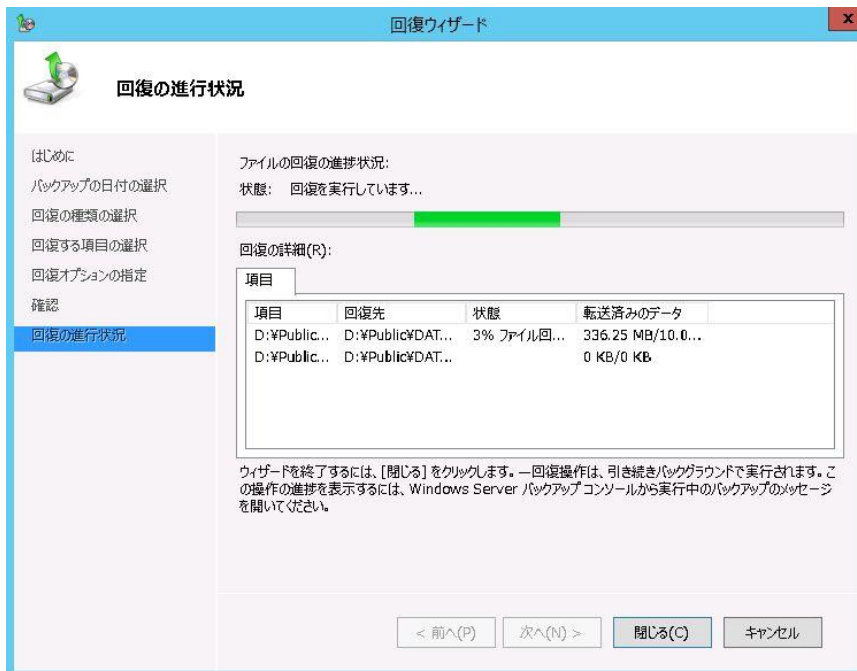
<セキュリティ設定>

NTFS のアクセス制御リストのアクセス許可をバックアップデータから復元させたい時にはチェックを入れます。

(8) 確認画面が表示されるので、項目・復元先等を確認し、[回復]をクリックします。

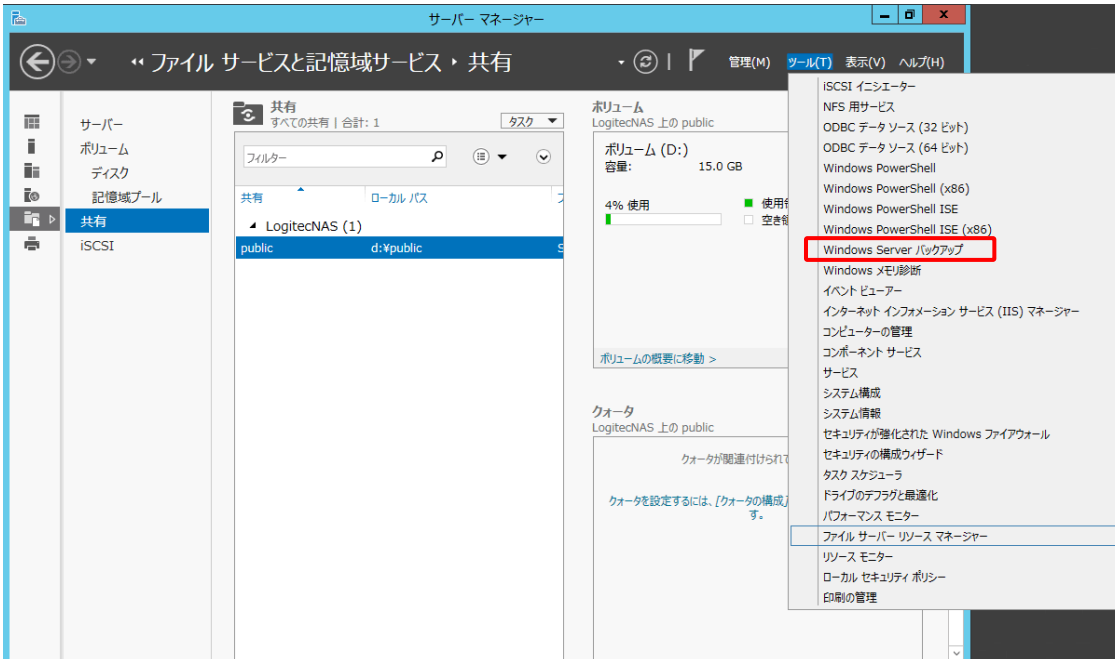


(9) 復元作業が始まります。
作業中は以下の[回復の進行状況]画面が表示されます。

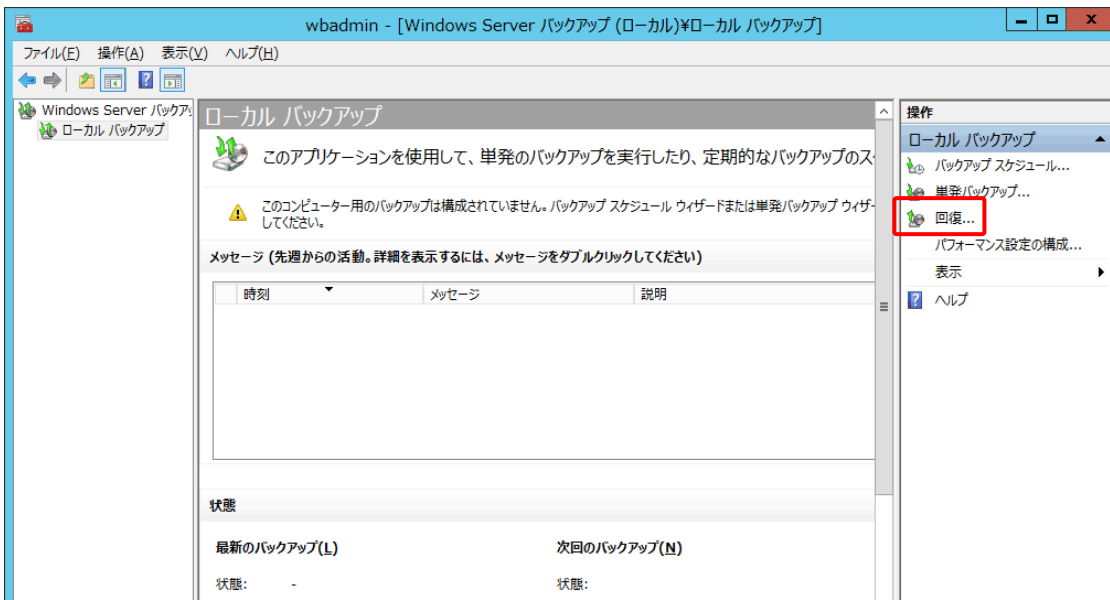


2. データ領域のボリューム全体の復元

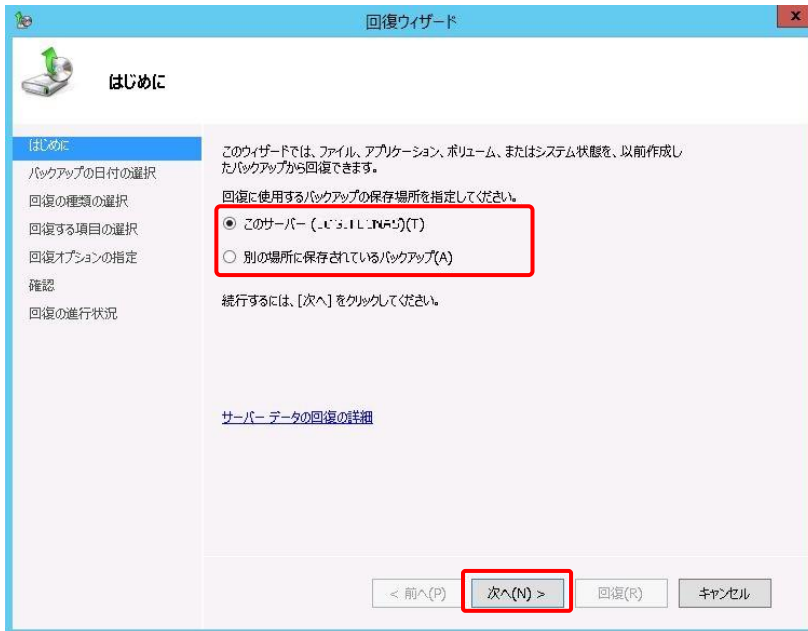
(1) [サーバーマネージャー]より[ツール]をクリックし、プルダウンメニューから[Windows Server バックアップ]を選択します。



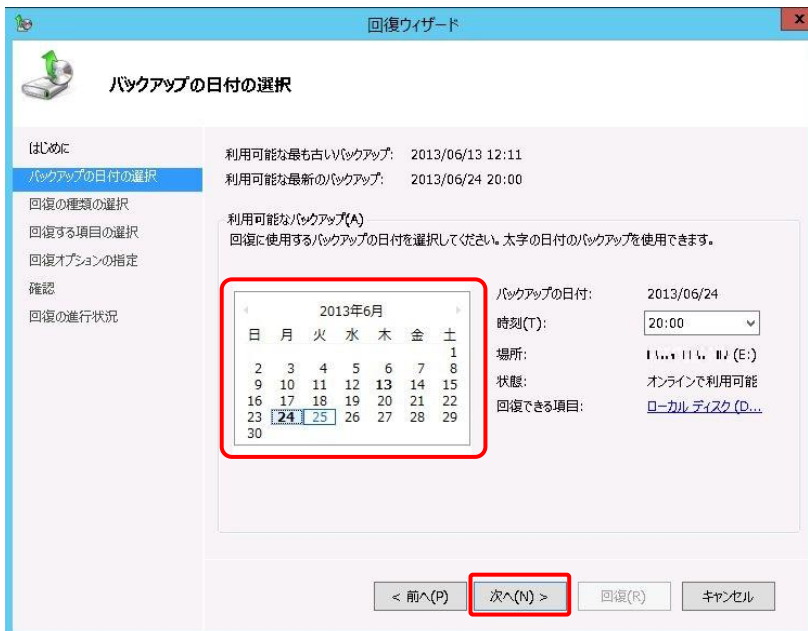
(2) 「Windows Server バックアップ」が起動しますので、[回復]をクリックします。



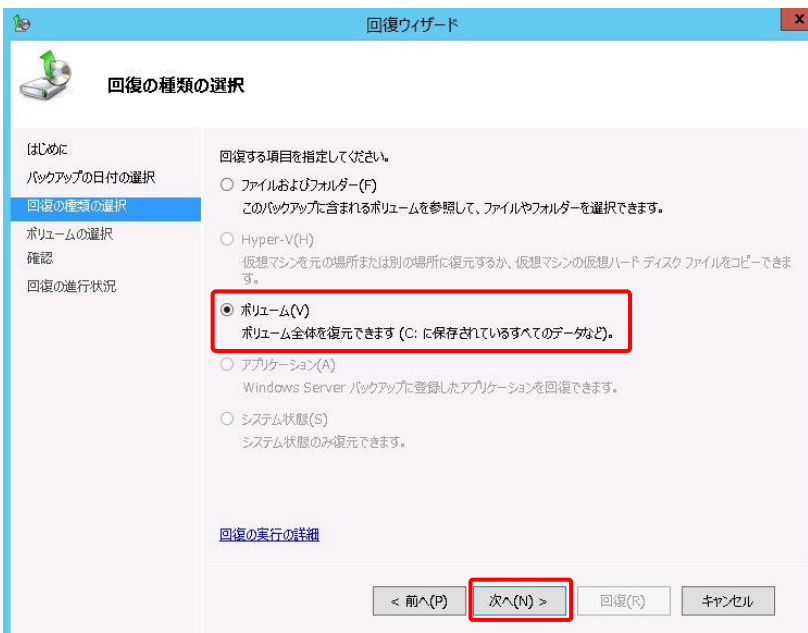
(3)「回復ウィザード」が表示されます。バックアップの保存場所を指定し[次へ]をクリックします。



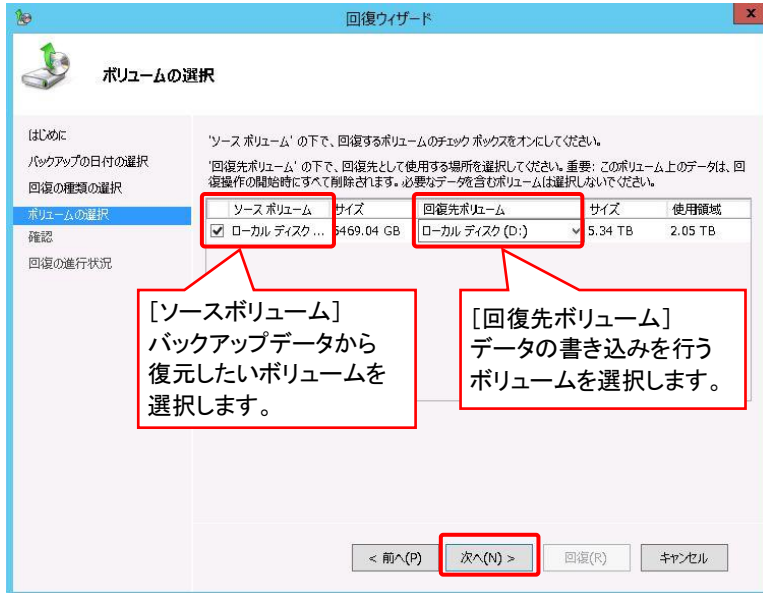
(4) 復元したいバックアップの取得日付を選択し[次へ]をクリックします。



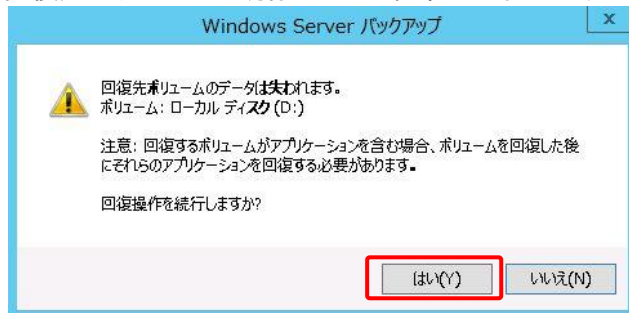
(5) [ボリューム]を選択し[次へ]をクリックします。



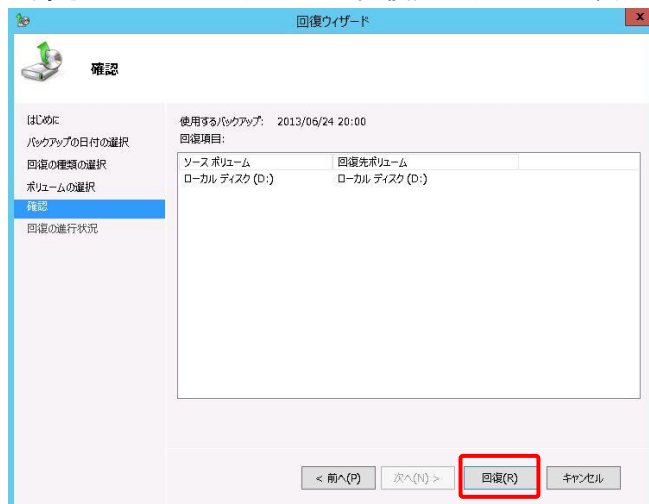
(6) ソースボリュームと復元先のボリュームをそれぞれ選択し、[次へ]をクリックします。



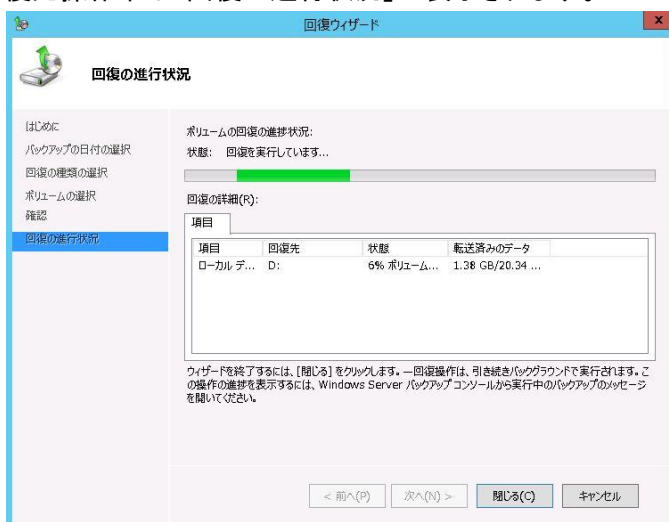
(7) 回復先ボリュームの既存データが失われる旨のアラートが表示されますので、内容をご確認の上[はい]をクリックします。



(8) 登録されたソースボリュームと回復先ボリュームが表示されますので、ご確認の上[回復]をクリックします。



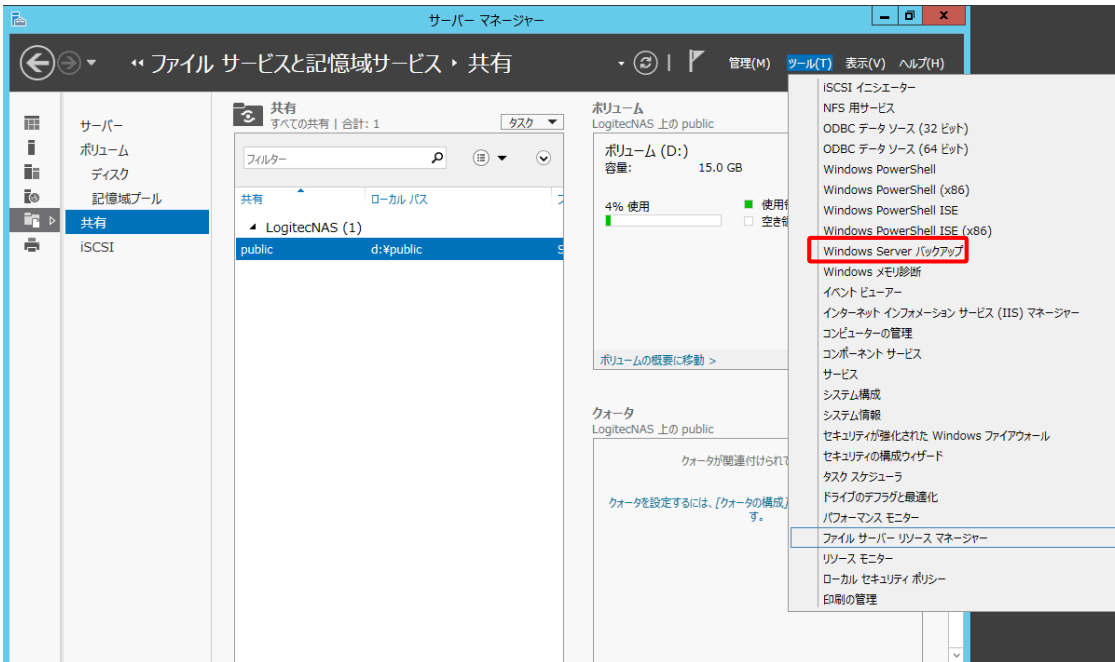
(9) 復元操作中は「回復の進行状況」が表示されます。



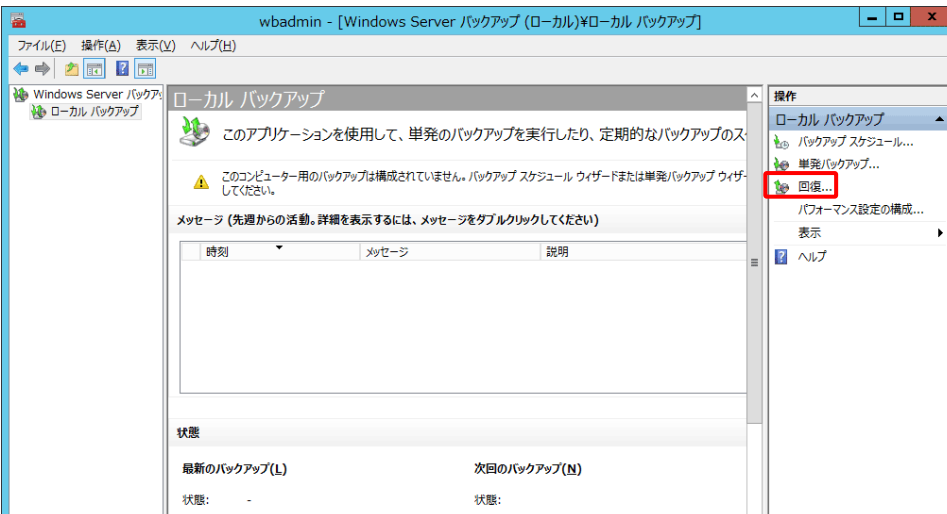
3. システム状態の復元

ここでの「システム状態」とは、バックアップ時の「Windows システムファイル」・「レジストリ」・「COM+クラス登録データベース」・「システムファイル等のブートファイル」等の事を言います。インストールされたアプリケーションソフトやユーザーデータは含まれません。

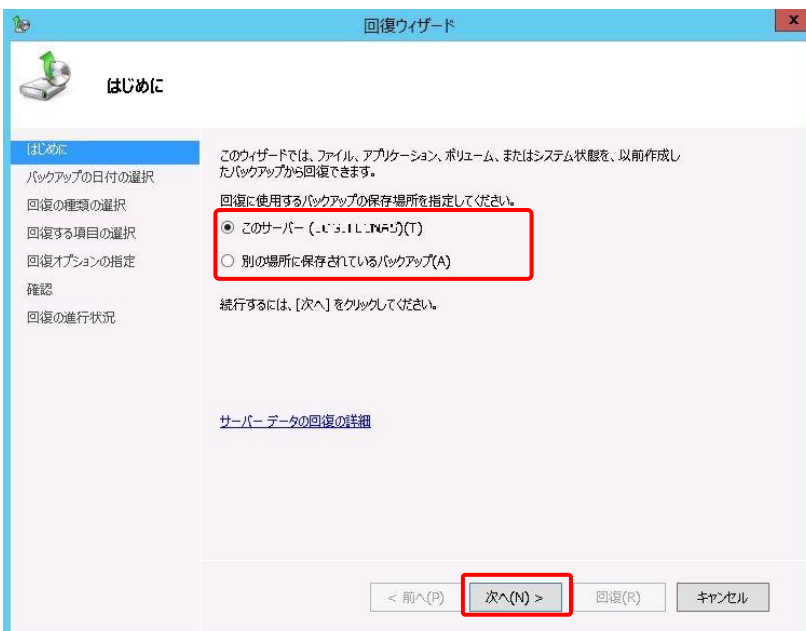
(1) [サーバーマネージャー]より[ツール]をクリックし、プルダウンメニューから[Windows Server バックアップ]を選択します。



(2) 「Windows Server バックアップ」が起動しますので、[回復]をクリックします。



(3) 「回復ウィザード」が表示されます。バックアップの保存場所を指定し[次へ]をクリックします。



(4) 復元したいバックアップの取得日付を選択し[次へ]をクリックします。

回復ウィザード

バックアップの日付の選択

はじめに
バックアップの日付の選択
回復の種類を選択
回復する項目の選択
回復オプションの指定
確認
回復の進行状況

利用可能な最も古いバックアップ: 2013/06/13 12:11
利用可能な最新のバックアップ: 2013/06/24 20:00

利用可能なバックアップ(A)
回復に使用するバックアップの日付を選択してください。太字の日付のバックアップを使用できます。

2013年6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

バックアップの日付: 2013/06/24
時刻(T): 20:00
場所: I:\... I:\... I:\... (E:)
状態: オンラインで利用可能
回復できる項目: ローカル ディスク (D...

< 前へ(P) **次へ(N) >** 回復(R) キャンセル

(5) [システム状態]を選択し[次へ]をクリックします。

回復ウィザード

回復の種類を選択

はじめに
バックアップの日付の選択
回復の種類を選択
システム状態の回復先の場...
確認
回復の進行状況

回復する項目を指定してください。

ファイルおよびフォルダー(F)
このバックアップに含まれるボリュームを参照して、ファイルやフォルダーを選択できます。

Hyper-V(H)
仮想マシン元元の場合または別の場所に復元するか、仮想マシンの仮想ハードディスク ファイルをコピーできます。

ボリューム(V)
ボリューム全体を復元できます (C: に保存されているすべてのデータなど)。

アプリケーション(A)
Windows Server バックアップに登録したアプリケーションを回復できます。

システム状態(S)
システム状態のみ復元できます。

回復の実行の詳細

< 前へ(P) **次へ(N) >** 回復(R) キャンセル

(6) [元の場所]を選択し[次へ]をクリックします。

回復ウィザード

システム状態の回復先の場所を選択

はじめに
バックアップの日付の選択
回復の種類を選択
システム状態の回復先の場...
確認
回復の進行状況

システム状態の回復先を指定してください。

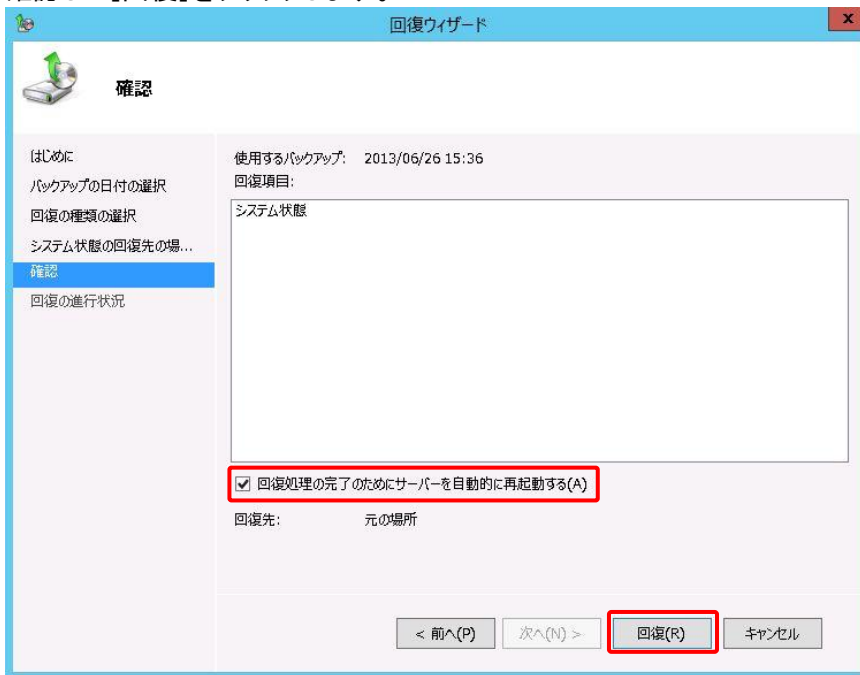
元の場所(O)
このオプションはシステム状態を復元します。操作の最後に再起動が必要です。

別の場所(A)
このオプションは、システム状態を一連のファイルとして指定の場所にコピーします。

参照(B)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 回復(R) キャンセル

(7) 確認画面が表示されるので、[回復処理の完了のためにサーバーを自動的に再起動する]にチェックが入っていることを確認して[回復]をクリックします。



※システム状態の復元が完了すると自動的に再起動がかかりますのでご注意ください。

《付録》バックアップ用 HD フォーマット手順

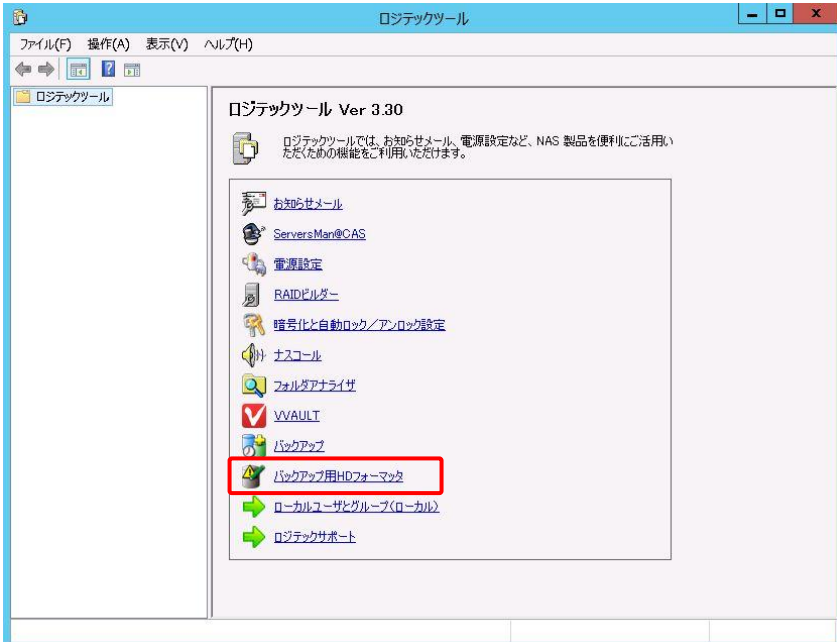
本製品に接続する、USB 外付けハードディスク用の専用フォーマッタです。

<注意>

本製品に USB 外付けハードディスクを接続した際にはこのフォーマッタであらかじめ HD のフォーマット・修正の適用を行ってください。本フォーマッタでフォーマットされていない USB 外付けハードディスクでバックアップを行った場合、本製品が正常に動作しない場合があります。

◎フォーマット方法

(1) [ロジテックツール]の[バックアップ用 HD フォーマット]をクリックします。



(2) 「Logitec NAS バックアップ用 HD フォーマット」が起動します。



① ターゲットドライブの選択リスト

接続されている USB 外付けハードディスクの一覧が表示されます。このリストで、フォーマットする対象の HD ユニットを選択します。また、リストには下記の情報が表示されます。

ターゲット名 …… USB 外付けハードディスクの名称が表示されます。

ドライブ …… USB 外付けハードディスクの論理ドライブ名が表示されます。

総容量 …… USB 外付けハードディスクの総容量です。 ※1 キロバイト=1,024 バイトの数値です。

パーティション …… パーティション形式が表示されます (MBR または GPT)。

対応 …… 弊社 NAS 製品へ接続した際に発生する問題を回避するための修正が適用されているかを示します。

○ …… フォーマット済みか、またはフォーマットの必要がない状態です。

× …… 修正の適用が必要な状態です。

— …… 未フォーマットの状態です。

② 「フォーマットする」チェックボックス:

修正の適用を行う際、対象のハードディスクを論理フォーマットするかどうかを選択します。このチェックボックスを“ON”にして実行した場合、対象のハードディスクに対して論理フォーマットが行われ、保存されていたデータは全て消去されます。未フォーマットのハードディスクに対して本プログラムを適用する際にご利用ください。

③ ボリュームラベル入力用エディットボックス

「フォーマットする」チェックボックスが“ON”の場合のみ、有効になります。論理フォーマットを実行する際に付与されるボリュームラベルを指定します。32文字まで入力可能です。

④ 「実行」ボタン

「ターゲットドライブの選択リスト」で選択されているハードディスクユニットに対して、フォーマット/パラメータの設定作業を実行します。論理フォーマットを実行する場合には数分、実行しない場合には数秒で作業は完了します。

⑤ 「閉じる」ボタン

本プログラムを終了します。本プログラムによるパラメータの修正処理実行中は、クリックしないでください。

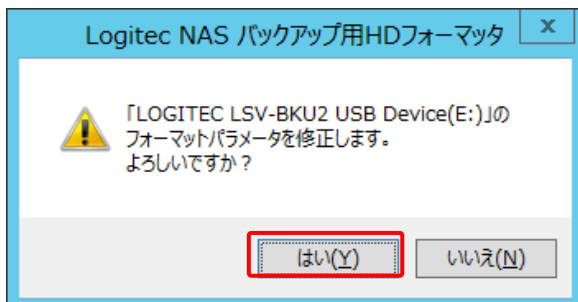
(3) 「ターゲットドライブの選択リスト」で、修正を行うハードディスクを選択します。

論理フォーマットを実行する場合には、「フォーマットする」チェックボックスを“ON”にします。保存されているデータは全て消去されますのでご注意ください。また、論理フォーマットを行う場合には、ボリュームラベルを指定してください。デフォルトでは、「LOGITEC HD」が適用されます。

設定を確認の上、間違いがなければ「実行」ボタンをクリックしてください。

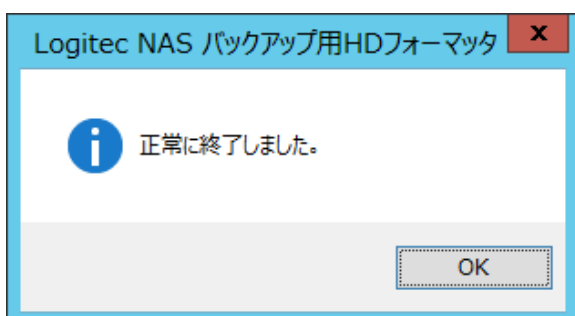


(4) 実行確認のメッセージボックスが表示されますので、内容をご確認の上、「はい」をクリックして処理を進めてください。

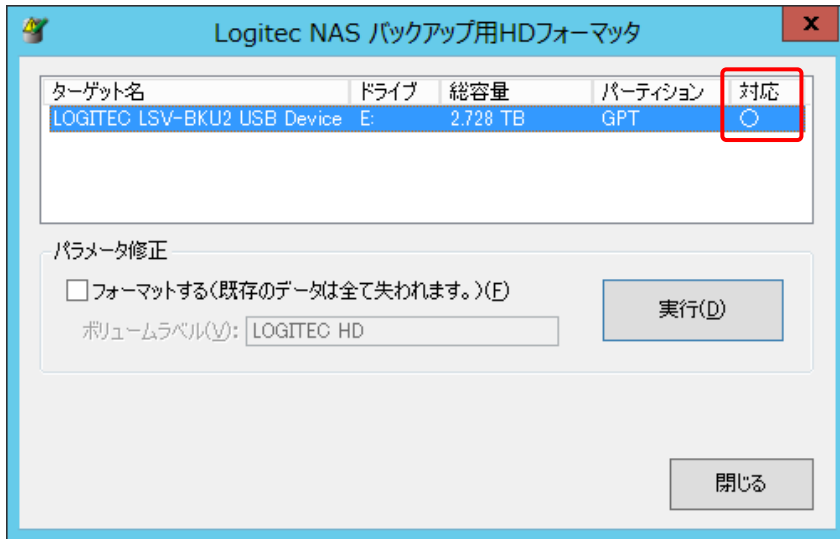


(5) 論理フォーマットを行う場合は数分、行わない場合は数秒で作業は完了します。

作業の完了をお知らせするメッセージボックスが表示されます。内容をご確認ください。



(6) 作業完了後、ターゲットドライブの選択リストの「対応」項目に、○が表示されていることをご確認ください。



以上で作業は完了です。「閉じる」ボタンをクリックして本プログラムを終了してください。